2部優勝決める

東都大学野球秋季リーグ戦

最終戦を待たず

▲打撃好調の柿沼伸彦＝立正大戦（撮影・日下石聡子）

東都大学野球秋季リーグ戦（2部）で、専大は10月13日現在、無傷の8連勝で勝ち点4を挙げ、早くも優勝を決めた。今度こそ「1部復帰」を決めて欲しい。入れ替え戦は11月6日（土）、7日（日）の予定。

【立正大1回戦】3回に長谷川勇也（商2・酒田南高）のツーランホームランで先制すると、6回には3連打で2点を追加。先発・西村光由（経営2・山梨学院大附高）が7回1失点の好投を見せ、勝利した。

【立正大2回戦】1回に1点を先制した後、試合は膠着状態へ。8回表に逆転されたがその裏、先頭の白濱暁（商4・専大北上高）のソロホームランで追いつき、2本のタイムリーヒットで逆転に成功、接戦を制した。

【拓大1回戦】1回に岡本修平（商1・桐蔭学園高）のタイムリーで2点先制したのを皮切りに、打線が爆発。森拓男（商4・東福岡高）のホームランなど計21安打を放ち、8回まで毎回得点で圧勝した。

【拓大2回戦】両チーム無得点で迎えた5回、満塁のチャンスから森が2試合連続のホームランを放ち一挙4点。その後も着実に点を重ね、投げては先発・阿部正太郎（経済2・新潟明訓高）が7回を無失点に抑え、快勝した。（末永 恵・文2）

【ニュース専修2004年10月号16面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

男子27度目の優勝

秋季関東学生卓球リーグ戦

殊勲賞に原、阿部が最優秀選手賞

秋季関東学生卓球リーグ戦が、９月６日から１０日まで、代々木第２体育館で行われ、男子が4勝1敗で平成7年以来１８季ぶりとなる27度目の優勝を成し遂げた。

個人では、シングルス・ダブルスで大車輪の活躍を見せた原雅彦（商2・青森山田高）が殊勲賞を、阿部淳一（経済4・遊学館高）が優秀選手賞を受賞した。

初戦の明大戦は４｜３で勝利。早大には敗れたが、埼玉工大、中央大に競り勝ち、優勝に王手をかけ、最終日・大正大戦に臨んだ。フルセットまでもつれ込む接戦が続いたが、山城譲二主将（商4・柳川高）、阿部がシングルスで連勝。４－２で勝利した。

山城主将は「リーグ戦では優勝経験が無かったので満足している。周りの方々の応援が後押しとなり、優勝につながった」と喜びを語った。個人の実力以上にチーム全体の勝利に対する強い意識が必要となる団体戦を、すばらしいチームワークで乗り切った専大。１０月７日から行われる全日本学生選手権でも活躍が期待される。

2季ぶりの１部復帰を目指した女子は、4戦目で筑波大に敗れ、4勝1敗の2位。惜しくも優勝を逃し、入れ替え戦進出はならなかった。
（橋本 麻未・経済1）

【ニュース専修2004年10月号16面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

フリー120kg級3連覇、グレコ96kg級優勝

全日本学生レスリング

田中が文科大臣杯獲得

▲ 文部大臣杯を手に喜びの田中

第47回全日本学生レスリング選手権がアクシオン福岡で、9月16日から20日まで行われた。田中章仁主将（経済4・三井高）が、フリースタイル（以下フリー）120kg級で優勝に輝き、見事3連覇を達成。さらに、グレコローマンスタイル（以下グレコ）96kg級でも優勝を果たし、大会最優秀選手に贈られる文部科学大臣杯を受賞した。

決して万全の体調ではなかった田中。腰のケガで満足いく練習は行えずに本番を迎えたが、1日4試合をこなす過密日程でもケガの影響を感じさせず、歴然とした力の差を見せつけて大会を制した。「今までの練習で体に染み付いていたことをうまく出せた。焦らずに自分のペースで試合を運ぶように心がけた。初の文部科学大臣杯を受賞出来、本当にうれしい」と話した。佐藤満コーチも「田中は学生選手では突出した存在」と高く評価する。

また、今大会では多くの選手が活躍。グレコ74kg級で金森道（商4・八千代松蔭高）が3位、小田貴久（文4・土佐塾高）がベスト8。フリー96kg級で三上恭佑（経済3・巻農高）、吉田年成（商3・八戸工大一高）が共にベスト8、三上はグレコ84kg級でもベスト8。さらにフリー66kg級で林田重吾（経営1・北海高）がベスト8となった。

10月の全日本学生王座決定戦は初戦で敗退してしまったが、11月の全日本大学選手権に向け、田中主将を中心に厳しい練習に汗を流している。下級生の成長もあり、部内での出場枠争いも熾烈だ。そこで培われた闘争心で他校を圧倒してもらいたい。（松本 旬平・経済2）

【ニュース専修2004年10月号16面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

女子シングルス・石原が優勝

関東学生テニス

石原・大川組ベスト8

関東学生テニス選手権が９月６日から１３日まで東京都萩山テニスコートで行われ、女子シングルスで石原伶奈（文2・静岡市高）が見事優勝を果たした。大川香奈（文2・富士見丘高）がベスト8、ダブルスでも石原・大川ペアがベスト８入りした。

１試合ごとに力を付け、ほとんどセットを落とさずに勝ち進んだ石原。決勝では「ずっと憧れていた」という慶大・野沢と対戦した。第１セットは5ー7と苦しんだが、第2セットは６－２で奪取。最終セットは互いに譲らず、タイブレークの応酬の末、見事栄冠をつかんだ。

「とにかく目前の試合だけに集中して、初戦から全力で挑んだ。決勝はプレッシャーもあったが、良い試合が出来た。佐藤雅幸監督をはじめ、パートナーの大川やみんなの声援が後押しとなり、最後まで実力を出し切れた」と語った。
（柴田 麻実・文１）

【ニュース専修2004年10月号16面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

グリーンマシーン 爆発の予感

関東大学アメフト 3戦全勝

▲ 三上理行（画面右）のフォローを受け、長嶺公太（左）が力走＝日大戦（撮影・宮山友希）

関東大学アメリカンフットボールリーグ戦で専大は10月10日現在、3戦全勝。02年度からリーグ戦15連勝と記録を伸ばしている。
【日大戦＝9／26】
後藤亨輔（商4・足立学園高）がTDを決めるも10―21で折り返す。後半、中田雅之（法1・平安高）から古市寛典（経営3・佼成学園高）へのパスが通り、TD！ 流れをつかむと終了10秒前に、またも中田からのパ スを古市がキャッチ！！ 24－21の大逆転勝利。

【慶大戦＝10／10】
0－7で後半へ。梅本祐輔（経営4・平安高）のパントリターンTDで同点とした後、中田から梅本へのパスが決まり逆転。24－10で白星を挙げた。

2試合連続の逆転勝利に「ある程度勝ちパターンが決まってきた」と平野恭雄監督。残りの試合も力を発揮し、猛進してほしい。
（中川 泉穂・文1）

【ニュース専修2004年10月号16面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.